



研究用試薬

ヒストファイン

第一抗体

抗NKX3.1ウサギモノクローナル抗体(EP356) (AT用)

(動物種：ウサギ)

包装： 50テスト(6.5mL)

Code： AT1828-1

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

■本品は、自動染色装置ヒストステイナーAT用の試薬 第一抗体である。

■**特異性および抗原分布**：ヒトNKX3.1と特異的に反応する。NKX3.1は、8番染色体短腕21.1領域上にある遺伝子 *NKX3.1* にコードされている核内に存在するアンドロゲン調節ホメオドメインタンパク質であり、前立腺における形態形成や腫瘍抑制機能を有している⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾⁽⁵⁾。正常では、前立腺上皮細胞に反応がみられる。また、精細管内のセルトリ細胞または精原細胞などにおいて弱い反応がみられる場合がある⁽⁷⁾。腫瘍では、前立腺上皮由来の腫瘍細胞に反応がみられる⁽⁵⁾⁽⁷⁾⁽⁸⁾。前立腺上皮細胞において特異性が高いことから、前立腺上皮由来の腫瘍のマーカーとして有用である。前立腺癌と尿路上皮癌との判別や、原発不明癌における原発巣の特定にも役立つ⁽⁴⁾⁽⁷⁾。また、前立腺特異抗原(Prostate Specific Antigen(PSA))や前立腺酸性ホスファターゼ(Prostatic Acid Phosphatase(PSAP))の発現の有無と同時に検出することは、前立腺上皮由来の腫瘍の判別の信頼性を高める上で非常に有用である⁽⁴⁾⁽⁷⁾。

注) 唾腺上皮や肺気管支粘液腺、乳腺小葉癌に染色がみられる場合がある。なおNKX3.1が発現している細胞では、核の他に細胞質に弱～中程度の染色がみられる場合がある。

■**クローン名**：EP356

■**抗体のサブクラス**：ウサギ IgG

■**免疫原**：ヒトNKX3.1と同じ配列を有する合成ペプチド

■**製法**：アフィニティ精製より得ている。

1. 内容

第一抗体・・・抗NKX3.1ウサギモノクローナル抗体(EP356) (動物種：ウサギ)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と 0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に 6.5mL を含む。

2. 使用目的

組織・細胞中の NKX3.1 の染色。

3. 使用方法

パラフィン包埋切片の免疫組織化学染色および免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。

1) 他の試薬とともに試薬ラック(AT用)にセットし、染色を開始する。

2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

4. 染色方法の設定

試薬の反応温度、反応時間を下記に設定する。

《タイプ：HRP Heat》

プロトコル名	Dewax	TR	温度(℃)	ブロッキング	試薬名	第一抗体 反応時間(分)	第一抗体 反応温度(℃)
NKX3.1-AT	Dewax2-AT	TRpH9-AT	101	Buffer	NKX3.1-AT	20	25

5. 貯法および使用上の注意

1. 2-8℃保存。

2. 使用期限はラベルに記載されているので使用前に確認すること。

3. 使用後は速やかに冷蔵保存すること。

4. 異なるロットの試薬や他製品の試薬を混ぜたりしないこと。

6. 取扱上(危険防止)の注意

1. 使用期限の過ぎた試薬は使用しないこと。
2. 本製品に関する安全情報は安全データシートを参照すること。
3. 本品を吸い込んだり、眼、口、皮膚、衣類などへの接触を避けること。
4. 本製品の廃棄の際には、各施設や地域および国のルールに従い、適切に廃棄すること。
5. 本品は、動物由来成分を含むので、取扱に注意が必要である。
6. 本品にはアジ化ナトリウムが含まれている。アジ化ナトリウムは水道管に含まれる銅、鉛との反応によって爆発の危険性があるので、多量の水とともに洗い流すこと。
7. ヒト由来の検体は、感染の恐れがあるので適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

7. 参考文献

- (1) Bieberich CJ, et al. J Biol Chem. 13;271(50):31779-31782. 1996
- (2) H. James Voeller, et al. CANCER RESEARCH 57:4455-4459. 1997
- (3) Bhatia-Gaur R., et al Genes Dev. 15;13(8):966-977.1999
- (4) Chuang AY, et al. Am J Surg Pathol. 31(8):1246-1255. 2007
- (5) Abate-Shen C., et al. Differentiation. Jul;76(6):717-727. 2008
- (6) Bowen C., et al. Cancer Res. 15;70(8):3089-3097. 2010
- (7) Gurel B., et al. Am J Surg Pathol. 34(8):1097-1105. 2010
- (8) Asch-Kendrick RJ, et al. J Clin Pathol. 67(9): 768-771. 2014

■ 研究用としてのみ使用すること。